

「学習・受験・進学 Q&A」

「高校生活・受験を支える父母の情報共有のタベ」（9月22日）に寄せられた皆さまからの質問への、進路指導部長の松井恵一先生からの回答です。

<遠距離通学や部活動などで時間を生み出すには……>

・遠距離通学の生徒について

取り組んでいたと良く聞く例

行き帰りの列車の中で、例えば、英単語を覚える。古典の文法を覚える。等を行っていた。

イヤホンで、リスニングの音源を聴いていた。など

字を書く等はできないので、「覚える」べき事項に時間を割いている生徒が多い。

考え方として

遠距離通学の生徒は、行き帰りの時間が固定されやすいので、これを利用して規則正しい生活に心がけた。

→夜の学習時間は23:00までに限定、朝は、5:30起床で登校し、学校で始業まで1時間勉強した など

24時間しかない時間を増やそうとするのではなく、効果的な活用に切り替えて取り組んでいた事例が多いです。

・部活動の生徒について

取り組んでいたと良く聞く例)

朝、7:00には登校し、始業までの時間を集中してできる時間として活用した。…これが一番多い例です。

逆に、夜は、最低限机に向かう時間を確保し、就寝は24:00までには迎えていることが多いです。

授業の合間の休み時間を、単語をいくつか覚えるなどの短時間で可能なものに活用している。

平日は、時間が取れない分、休日にしっかりと時間を確保している。等です。

<3年生の夏休みに札幌に夏期講習等に行っているか？>

多くはありませんが、ゼロでもありません。

日々の授業で身につけるべきことをしっかりと行い、長い時間を確保できる時にじっくり勉強することを行っています。

もし、行くとするならば、“刺激”の要素が一番大きいと思います。

自分で身につけるべきことをしっかりとやらずに、予備校に行けば何とかなるという考え方では、いつまでも成績の向上には繋がりません。理由は、自ら学ぶことを意識として持たなければ、夏期講習に行ったことで満足してしまうからです。

<3年生の時期ごとの学習方法は？>

・冬休みからセンター試験まで…「スピードと正確性」を意識して

受験大学にもよりますが、冬休みは、センター演習が重要です。センター試験は、時間と正確性の戦いになりますので、できない、できないと焦るのではなく、どのように時間配分をすべきかというスピード感を身につけることが大切です。

また、これまで受験してきた定期考査や模擬試験の復習を通じて、知識の抜け漏れを確認することが必要です。

※正確性が重要な理由…センター試験はマークしますので、間違っただけでマークすれば点数になりません。また、各教科で、選択科目マークがあります。これをマークし忘れると0点になります。後で取り返すことは絶対にできません。

・センター試験から前期試験まで…「2次向け講習を上手に活用して」

学習のペースは、学校で実施する2次向け講習を活用している生徒がほとんどです。強制ではありませんが、一緒に学ぶ仲間がいた方が、不安の解消にも繋がります。また、センター試験から2次試験までの間には、私立大学の受験がある生徒もいますので、受験予定をしっかりと立てることが不安解消やモチベーションの維持に重要です。例えば、私立大学の受験が5日間連続であった場合には、たいてい真ん中のあたりは、試験に集中できません。

・前期試験から後期試験まで…「絶対にあきらめない意識を持って」

前期試験終了後からすぐに後期試験に向けた勉強をまず始めることです。これまでの生徒の姿を見ていると、学校で学習しているケースがほとんどです。但し、ちょうど高校入試の時期にも当たり、登校できない日があるのも事実です。後期試験では、前期試験とは違い、教科の試験のみならず、小論文、面接を採用している学校も多いです。心構えとしては、学校で学習をすることそして、最後の最後まであきらめない姿勢が特に重要になります。前期が不合格となると合格者の姿が当然ですがうらやましく見え、後期まで期間は短いですが、モチベーションを維持できない生徒が多くなります。そのようなときに、学校で共に戦う仲間の存在が最後まで挑戦し続ける姿勢に繋がります。

※共通して言えるのは、

① 志望校を貫こうとする姿勢と努力です。

但し、全員がそうできるわけではないので…

② 受験校をしっかりと選択することです。

・前期・中期・後期の第1志望大学とセンター試験後に実際に出願する大学は？

国公立の出願期間は、前・中・後期ともに同時出願です。

前期の結果で後期に出願するという考え方はありません。(よく間違えるケースです)

センター試験後に、点数の状況によって出願が変わる可能性も含めて志望校をしっかりと決定することが必要です。

<受験時の服装について>

面接があるのであれば、スーツで受験に行きます。面接が無いのであれば、華美な服装や英字等の文字がプリントされた服装はダメです(文字が入った服装は、試験に影響する場合がありますため。センター試験では、受験案内にて規制されています。)が、落ち着いた服装であれば特に指定は有りません。服装の指定がある場合、例えば、実技の要素があり、ジャージで来るなどはその指示に従います。

また、冬期はブーツを履くお子さんが多いと思います。外靴のまま入るのが、大学では一般的ですので、上靴を持参するなどして、履き替えて受験することもリラックスして受験できる要素となります。(個人によります)これは、服装についても言えます。ある程度着脱できて温度調節が可能な服装が重要です。冬期間は、暖房が入りすぎる大学があったり、座席によっては、暖房に近くて暑いということも考えられます。温度調節としては、膝掛け等は不正行為に繋がる可能性があり、認められていないケースがほとんどです。従って、着脱できる温度調節しやすい服装が受験には適していると言えます。

<部屋探しについて>

・時期について

実際には、合格が決まってからと言うことになりますが、受験場所によっては、志望大学が決まれば情報収集をすることが必要となります。アパート等が多い地域・少ない地域もあります。大学生協が現在居住している学生はどのあたりかを地図で示し、物件等についても紹介してくれます。決めることは実際には後でも情報収集だけはしておいた方が良いでしょう。

居住場所は、東京であっても大学に近い場所で探すのがほとんどです。わざわざ電車で通う遠い場所にする場合もありますが、実際には、その後に引っ越しているケースがほとんどです。

※注意が必要なのは、学年によってキャンパスが変わる大学の場合です。その際は、キャンパスの真ん中くらいに居住地を決める場合と、引っ越す場合の2つが考えられます。但し、キャンパスが遠い場合には、引っ越すこととなります。

部屋探しは、2月下旬～3月上旬ころがピークになります。(特に前期合格発表あたり)

・アパート、寮、下宿、シェアハウス等について

どれが良いのかについては、各生徒さんの適性によります。考えられることについては、下記にまとめておきます。

	メリット	デメリット
アパート	他からの干渉を受けない。 他人の生活ペースにあわせる必要がない	自炊(得意であれば全くデメリットにならない) 時間コントロールがより重要となる。
寮	食事の心配がいない。 生活費が少ない	土日祝日は食事が無い場合も 生活に対する干渉が入る。(食事時間や入浴等) 寮でのルールに厳しさも
下宿	食事の心配がいない。 生活費が少ない。(寮よりも多くかかる)	土日祝日は食事が無い場合も 生活に対する干渉が入る。(食事時間や入浴等)
シェアハウス	多様な人間関係を気付くことができる。 最近では、大学で国際交流ができるように外国人と共同生活ができるように大学でシェアハウスを持つ場合もある。 この場合は、言語の習得に大きなメリットがある。 生活費を節約することができる。	食事は自分たちで用意する。 人間関係に悩むと生活しにくい。 多様な人間がいて、多様な価値観があることを受け入れなければならない。 自分たちでルールを構築する。